



## 創業120年を振り返って

# 千 字 万 感

株式会社カノークス  
代表取締役社長 木下 幹夫

当社は昨年、創業120年という節目の年を迎える事が出来た。

創業は1897年、加納商店、加納鉄鋼、カノークスという社名を経て、今日に至っている。

改めて会社の120年史を振り返ってみると、先代が時代の節目節目で大変な苦勞をされ、会社を変革し、今日まで継続してきた歴史が見えてくる。先代が関東大震災、大恐慌、そして太平洋戦争など、幾多の試練を乗り越えてきた結果、今日のカノークスがある訳で、先代の事業継続に対する熱い情熱と苦勞が良く分かる。長年にわたり会社を継続させる為には、その時代の環境にきちんと対応しながら会社を経営していく必要があるという事だ。

時代が大正に入ると、先代は輸入綿花に目を付けた。綿花を縛っている鉄製のバンドを引き伸ばして穴を開け、ニスを塗って輸出梱包資材として近隣の紡績工場に販売し、業績を伸ばした。材料を安く仕入れ、付加価値を付けて客先に売り込むという商法を編み出したが、関東大震災により日本経済に不況の嵐が吹き荒れ、加納商店も大打撃を被った。

昭和に入ると、今度は自転車業界に注目して自転車のパイプ関連の取り扱いを増やし、後に業界では「パイプの加納」という評判を頂くまで会社を成長させた。しかしその後、太平洋戦争という最大の試練が訪れる。戦後はほぼゼロからのスタートとなったが、それでも先代の事業継続の気力と情熱は失われず、地元の自動車産業に注目し、当時のトヨタ自動車工業様との関係強化に努めた。

現在、当社は流通業者として自動車部品メーカー様向けの鋼材供給を主体としているが、この商売の礎は先代のたゆまぬ努力と情熱によって築かれたものである。改めて先代の努力に感謝すると共に、我々自身も、今後会社が150周年、200周年という節目の年を迎えることができるよう、その時代の環境に対応し、知恵を絞り、会社を変革していかなければならないと思っている。最近、自動車業界は自動運転、EV化、AIと100年に一度の大変革の時代に入ったと言われており、環境の変化は我々の想像をはるかに超えた速さで進んでいる。この変革のスピードに遅れる事なく、環境に応じた適切な対応を行い、会社の発展と継続の為に精一杯頑張りたいと思う。